

令和２年度 第１回視聴覚センター運営委員会 摘録

日 時 令和２年９月２日（水） 午後３時～午後４時

場 所 京都市生涯学習総合センター ３階 会議室

出席委員	岡本崇紀	委員	
	小野恭裕	委員	
	勝木清隆	委員	
	岸本夏海	委員	
	小林啓祐	委員	
	阪本みゆき	委員	
	豊田まゆみ	委員	五十音順

欠席委員	上原潤明	委員	
	高橋利華	委員	五十音順

傍 聴 人 なし

１ 開会

- (1) 向井所長の挨拶
- (2) 新任委員の自己紹介
- (3) 摘録署名人に勝木委員長を選出

２ 議事

- (1) 令和元年度視聴覚センター事業報告
「令和元年度視聴覚センター事業報告」の説明を行った。
- (2) 令和２年度視聴覚センター事業計画
「令和２年度視聴覚センター事業計画」の説明を行った。
- (3) その他
新型コロナウイルス感染症対策に関するアスニーでの取組について説明を行った。

[委員からの主な質問や意見など] (○は委員, ・は事務局)

- 地蔵盆などに 16mm フィルムの貸し出しについて、一定利用はあるが、低調になっていることについては、内容が古いコンテンツなどがないかの点検が必要だ。

また、使いやすい機材でやっていくことで利用も増えるのでは。

最近では町内会の加入率が低迷するなど、コロナ禍で地蔵盆が中止となるなかで、貸し出しなどは工夫をして行っていく必要があると思う。

- 生涯学習講座案内「まなびすと」を見ると、アスニーでは様々なイベントが数多く行われていることがわかるが、今年はコロナの影響でイベントが中止されている。最近では徐々に再開しているとのことだが、これからも参加者が増えていくと良いと思う。また、懐かしの映画などを上映していくことで利用が増えると思う。

- 新しいライフスタイルを耳にすることが多くなり、ウィズコロナなどいろいろ考えて行動していくことが求められている。報告からは、座席を減らすなどいろいろ工夫をされて行われている様子がわかる。「まなびすと」に掲載されている「おうちで生涯学習」の情報からも学び方の工夫など、アナログな方法以外にスマートフォンなどの機器の使用方法などを学べば、地域の高齢の方でも自宅で生涯学習ができると思った。

- ゴールデン・エイジ・アカデミーなどの講義を YouTube で配信されていたので見ていた。YouTube で配信することで、家でも外でも、どこでも見ることができ、また、何回でも見ることができることはとても便利である。コロナの状況では、このような取り組みをすることで、映像をとおしてより多くの方に視聴していただければと思う。

- 昔に比べ、パソコンやアイパッドなど IT に長けている教員が増えてきているが、学校施設の環境整備がそのスキルに追いついていないので、工夫をしながら授業を行っている教員がたくさんいる。一番利用が多いのはデジタル教科書で、著作権が教育委員会にある場合は、英語や美術などで自由に使えるが、著作権のないところは使用できない。また、DVD を借りて 30 分や 1 時間を授業の中で視聴することはなく、5 分間でよいので映像をレンタルしてくれれば授業で使うことができる。

修学旅行の方面がコロナで変更されたが、9 月や 10 月にさまざまな方面へ出かけデジタル機器を使い映像や写真を撮る。その編集についても今の教員は長

けている。ただ、もう一歩進んだ取り組みができればいいと思う。

現在のデジタルの時代に映像機器がどう則していくかが今後の視聴覚センターの取組につながっていくと思う。

- アスニーでは懐かしの映画鑑賞会やクールスポット事業など多くに取り組まれていることを感心しているが、コロナで状況が一変してしまってとても残念に思う。コロナの見通しが立たない中、ソーシャルディスタンスを確保しながら日常生活を続けて行くことになるが、事業を止めるか、続けるかの判断を悩まれていることが伺える。積極的な取り組みが行われ、市民の方が楽しみにしている事業なので、参加できる人や回数が少なくなっても、事業を続けて行く必要があると思う。コロナの状況ではあるが、最大の注意を払いながら続けていくことが必要と思う。

人権啓発試写会だが、こういう時だからこそ、人との接触など、大変な社会を迎えていく中で、いろいろな立場の人たちがいる、いろんな人が困っている、更に、コロナが世の中を変えてしまう中で、やらないという選択肢と同時に、どうしたらできるのか、を考えながら、今の置かれている我々の立場を含めて問われているように思う。昨年に比べ予算は少なくなっているが、知恵を出し、出来る限りのことをしながら、ウィズコロナの社会を作っていかなければならない。NHKの取材でも注意を払い、取材先で感染者を出さない、また、もちろん、自分たちも感染する訳にはいかないと、相当デリケートな取材をしながら放送を出し続けていけないし、皆さんの不安とかを解消する材料を提供し、知恵を出しながら今までやってきたイベントや行事を行えればと思う。

- 皆さんの意見の中で広報というキーワードがポイントと思われた。「まなびすと」を見ると、これだけのイベントがあって、家で学べることがわかる。昨年度の会議では、いろいろな取り組みをどうお知らせしていくのが課題であるとの意見があった。昨年度はホームページの活用についても話題になっていた。広報の視点で取り組んでいることはあるか。

- ・ 広報手段として京都アスニーのホームページがある。いろいろな年代の方のご利用があるなかで、どうしても紙ベースの広報が必要なので、「まなびすと」を年3回発行している。ホームページを見られない方に向けて2万部発行して、公共施設や地下鉄のターミナルなどで配架をしている。事業によってはチラシを作成し配架をしている。また、トピック的な事業については、新聞などに掲載して広報している。

3 閉会